

With  
コロナ

歯科大学編



櫻井孝氏 神奈川歯科大学学長 ②

「診療面」では、どのような影響がありましたか。

櫻井 横須賀の附属病院では、緊急事態宣言時は、急患だけを受け入れ、それ以外の患者さんは外来、入院ともに控えました。5月7日から感染対策を徹底して予約診療を再開しました。

具体的な対応としては、表と裏の入口ともに4人ずつスタップが張り付いて、素通りしてしまつて人を防ぎ、来院時には新たに設置した感染対策診療室で、検温、渡航歴などの問診、手指の消毒などを義務付けました。また、診療に従事するスタッフ

フは、フェイスシールドや防護着、サージカルマスクの着用を徹底し、診療時には口腔外ハキュームを使用し、エアロゾル

への対応も考えて診療に当たっています。

患者さんの数は、現在は例年より少し少ないくらいまで回復しましたが、緊急事態宣言時は言うまでもなく、5、6月も従来の半分ほどの医業収入となりました。

# 感染対策診療室を設置

横浜クリニック研修センターでは、横須賀の附属病院よりも患者数が多いため、入口と出口を別にして、動線管理も行いました。附属病院と同じで、感染対策診療室でチェックをして、感染の疑いがある人は、個別診

療をするなどの対応を取りました。

臨床実習はどのように行いましたか。

7月から臨床実習を再開しましたが、学外実習の受け入れ先が確保できなかったため、研修センターでの実習となりました。

実習ができなかった期間は、座学を前倒しで行い、その分

7月以降は実習を中心に授業を組み替えました。また、夏休み

りましたか。

櫻井 患者さんの数が減った以外は、特に大きな変化はなかったと思います。

臨床数が減った分は、臨床ビデオを見てもらうなど課題を出し、レポートの提出などで補いました。また、実際に患者さんに接する前には、新型コロナウイルス感染症の知識も踏まえたトレーニングを行って診療に当たってもらいました。

研究面での変化などはありましたか。

新しい日常における歯科医療の役割を社会に周知させることも大切です。今後の学生教育や研究の面でも重要な分野になっていくと思っています。

今後の展望について教えてください。

櫻井 ウィズコロナと言われる中で、感染した患者さんは感染対策用の特別診療室で周りに配慮した治療を行い、通常の診療が滞ることのない診療提供体制を取っていく必要があると思っています。